

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

遼寧省檔案館 編

滿鐵調查報告

第四輯

13

SHANGHAI NORMAL UNIVERSITY PRESS
上海師範大學出版社



滿鐵調查報告

MANTIE DIAOCHA BAOGAO

第四輯

13

遼寧省檔案館 編

GUANGXI NORMAL UNIVERSITY PRESS
广西师范大学出版社

· 桂林 ·



經濟資料第十四卷第八號 滿洲對日本化學工業的價值

滿鐵東亞經濟調查局 一九二八年八月 1

日本工業與滿洲原料（二） 滿蒙煤炭與日本燃料問題

滿鐵庶務部調查課 一九二八年十月 131

資料第十五篇 滿洲需求鋼鐵的調查附關於中國民間需求鐵鍋的調查

滿鐵臨時經濟調查委員會 一九二九年十月 199

資料第二十一編 滿蒙工業、家庭需求燃料調查報告書

滿鐵臨時經濟調查委員會 一九二九年十二月 299

上海滿鐵調查資料第八編 日本在上海的棉布加工工業現狀

滿鐵上海事務所研究室 一九三〇年三月

393

滿鐵調查資料第一百四十七編 南滿洲石灰業

滿鐵總務部調查課 一九三〇年十月

475



經濟資料第十四卷第八號

滿洲對日本化學工業的價值

昭和三年七月二十八日納本（毎月一回一日發行）

昭和三年八月一日發行



經濟資料

第拾四卷 第八號

内地化學工業に對する滿洲の價值

南滿洲鐵道株式會社

東亞經濟調查局發行

内地化學工業に對する滿洲の價值

目次

序 説……………(一)

第一章 内地化學工業に對する原料資源としての滿洲の價值……………(三)

第一節 石 炭……………(四)

第二節 鹽……………(一〇)

第三節 大 豆……………(一四)

第四節 そ の 他……………(一七)

第二章 滿洲に於ける化學工業の現況……………(四二)

第一節 油 坊 業……………(四二)

第二節 曹 達 工業……………(六〇)

第三節 油母頁岩工業……………(六五)

第四節 皮革工業……………(六六)

第五節 製糖業	(六)
第六節 燐寸工業	(八一)
第七節 マグネサイト及びドロマイト工業	(八五)
第八節 硝子工業	(八九)
第九節 煉瓦工業	(九二)
第十節 セメント工業	(九六)
第十一節 製紙業	(九九)
第十二節 硫安工業其他	(一〇三)
第十三節 釀造業	(一〇三)
第十四節 石炭の化學工業	(一〇五)
第十五節 その他の化學工業	(一〇六)

第三章 内地化學工業製品の販路としての滿洲の價值 (一〇)

内地化學工業に對する滿洲の價值

序 說

本篇の目的は精密工業就中現代工業の精華と稱せられる化學工業に關して滿洲と日本内地との關係を明かにするに在る。

惟うに天然資源の貧弱なる我國工業の行く可き途は、戦前の獨逸と同じく、化學工業の外に出でない事が信ぜられるに至つた今日に於いてはこの種の觀察も亦徒爾ではなからう。

本篇第一章に於いては滿洲の原料資源中化學工業に關するものに就いて、その包藏量、生産力、需給關係就中その我國内地への供給に關する諸事情を觀察し、第二章に於いては滿洲化學工業の現況を略述し、最後の第三章に於いては消費地としての滿洲即ち内地化學工業製品の販路として滿洲が我國にとり如何なる價值を有するかの點に關して論究した。云ふ迄もなく現在の滿洲はその内地工業に對する關係に於いて、未だ原料供給地たるに過ぎないが、個々の商品に就いて言へば、その或者に關しては製品の供給地であり、他の或者に就いては内地商品の販路であつて、將來滿洲の開発が進行し、人口増加するに於いては、消費地としての滿洲が我國産業にとり、重要な役割を演ずるに至る可きことは明かである。而してこの傾向は今日に於いても已に看取せられ得るので

序 説

あつて、これ本篇の重心をこの最後の章に置いた一つの理由である。

二

第一章 内地化學工業に對する原料資源

としての滿洲の價值

今日我國の化學工業はその原料の大部分を海外に仰いで居り、僅かに生糸、甘蔗、甘藷、魚油、樟腦、澱粉、セメント原料、陶磁器原料並びにパルプ、石炭、石油、パラフィン、硝子原料、麥酒原料、染料原料等の或部分が國產たるに過ぎない。

天然原料を出來得る限り國內に生産せしむることは、化學工業の發達に大なる強味であるから、斯くの如き原料の生産を計り、自給自足の途を講ずる事は極めて必要である。

然れ共、化學工業の凡ての原料を有利に國產せしむることは固より困難である。従て輸入原料を加工し、國產製品として國內の需要に充て、且之を有利に輸出することは、我國に於ては特に重要であつて、且化學工業はこの目的に最も適合した工業である。獨逸が我國と同じく自國內に天然原料を産出すること頗る貧弱なるにも拘らず世界に卓越せる化學工業國として、戰前殊にその活躍が目醒しかつたことは人の知るところである。我國に於ける化學工業の近年の發達も、亦多くは天然原料を國外に仰いで、之を國內に加工することに基いて居るのである。滿洲には開發せらる可き廣大なる面積があり、又極めて豊富なる各種の資源が埋藏せられて居るのであるが、化學工業の資源としては如何なるものか數へられるであらうか。次に之を礦物界と植物界とに分ちて列擧する。

第一章 内地化學工業に對する原料資源としての滿洲の價值

四

(1) 礦物界 石炭、無煙炭、油母頁岩、食鹽、苦汁、珪石、長石、粘土、滑石、螢石、重晶石、白雲石、菱苦土、鑛、石灰石、方鉛鑛、閃亞鉛鑛、硫化鐵鑛、砂金、各種酸化鐵鑛、琥珀等
 (2) 植物界 大豆、蘇子、落花生、蓖麻子、胡麻、大麻、高粱、玉蜀黍、小麥、大麥、木材、甜菜等
 (3) 動物界 獸骨、獸皮、獸毛等
 而してこれ等の資源中最も重要なものは石炭と鹽と大豆とであるから、以下之等のものに就いて分説する。

第一節 石 炭

一、滿蒙の石炭資源

(1) 南 滿 洲

○滿鐵地質調査所「南滿洲石炭產地一覽」(大正十三年十月)

礦產地名	位	置	鐵石種類	品質	量	權利關係	其 他
五 湖 嘴	普蘭店の西方八十支里	亞無煙炭 不粘結	稍 良	多からず	拒興公司(周文貴)	豫行中	
蜜 家 溝	金州驛の東々南五邦里	同	不良	同	君塚茂太郎、櫻井一家	土法豫行	
炸 子 窩	瓦房店驛の東方六支里	半瀝青炭 一部粘結性	同	少し	滿鐵會社	森田彦三郎に貸付豫行中	

煙臺	滿鐵本線煙臺驛より東九哩	亞無煙炭	不粘結	稍良	稍多し	滿鐵會社、滿鐵鐵礦區外に尾明山(天利公司)あり	出炭高、滿鐵鐵礦區一日三百噸其他一日約百噸
撫順	大連港より二百四十一哩四分	瀝青炭	弱粘結性	良好	頗る多し	滿鐵會社、滿鐵鐵礦區外に阿金溝(周文貴)飄爾屯(潤興公司)等あり	出炭高、滿鐵鐵礦區一日一萬五千噸其他約二百噸
石門寨	撫順の東々北五十支里營盤街道	同	同	稍良	多からず	王蘭齊、峯八十一其他	
本溪湖	安奉線の中間	亞無煙炭	粘結性	良好	稍多し	日支合辦本溪湖煤鐵公司稼行中	
牛心臺	本溪湖の東方三十支里	無煙炭	稍良	相當にあり	日本合辦彩合公司		
小市	太子河の上流百二十支里	亞無煙炭	不粘結	同	同	無し	
雙馬集	本溪湖の東南百六十支里	亞無煙炭	粘結性	同	多からず	雙合裕煤鐵公司東洋炭礦株式會社と採掘販賣契約あり	土法稼行
田師付溝	本溪湖の東方百六十五支里	無煙炭及半無煙炭	弱粘結性	良好	相當にあり	富華公司外三名	同上
大臺山	鐵嶺の西北四支里	褐炭	不粘結	稍良	少し	華盛公司	休業
懿路	新臺子驛の東一邦里弱	同	同	同	同	以前愛商公司加藤清吉の關係ありたり	同上
沙河子	昌圖の東北一邦里半	同	同	同	多からず	日支合辦裕昌煤鐵公司	
大疙瘩	西安縣の北方四支里	同	弱粘結性	良好	稍多し	寶興公司、富國公司、裕興公司、大成公司、裕華公司、全益公司等外に出願中のもの三あり	各公司を通じて一箇年産額約三萬噸

第一章 内地化學工業に對する原料資源としての滿洲の價值

第一章 内地化學工業に對する原料資源としての滿洲の價值

六

掏鹿	西豐縣の北二十五支里乃至四十五支里	同	同	相當にあり	(鴨子圖)天成公司、銘鼎豐(太平嶺)富泰公司、小梨樹河子、豐北公司、豐源公司	土法稼行一箇年産額約五千噸
杉松崗	朝陽鎮の南東七十支里	亞無煙炭	稍良	多からず	大興密外十三名	
半載溝	柳河縣の東々北九十支里	同	同	少し	無し	
仙人溝	柳河縣の東々南四十支里	亞無煙炭	同	同	同上	
五四道溝	樺甸縣の西南二十五支里	同	同	相當にあり	天合興其他	峰旗良允、李健賢合辦採掘出願中
五龍屯	吉林の東々南二百支里	褐炭	良好	同	德興公司(高啓明)	休業
鐵廠	通化の東々北六十支里	亞無煙炭	同	多からず	寶泰公司其他	土法稼行
缸窑	吉林の北々東百支里	褐炭	不良	相當にあり	一部分に劉桐岡内垣實衛の合辦あり	土法、一箇年産額全炭田を通じて約一萬五千噸
火石嶺	吉長鐵道營城子驛の北約八支里	同	稍良	同	保吉煤鐵公司	一日二、三十噸宛出炭
寬城子	石碑嶺は長春の東三邦里半、陶家屯は東南五邦里	一部粘結性	同	稍多し	滿鐵會社	石碑嶺は南滿鐵業株式會社に於て引受採掘中
杉松背	間島、朝鮮會寧の北八邦里	一部瀝青質を帶ぶ	不良	多からず	(甌山洞炭坑)華盛公司	休業
老頭溝	間島、局子街の西約六邦里	同	稍良	相當にあり	日支合辦南滿洲大興合名會社	從來延吉煤鐵公司其他二三の土法稼行ありたり

大 窰 溝	錦州の西南九十支里、京奉線女兒河驛より山天迄通裕鐵道あり	瀝青炭	良好	多からず	錦西煤鐵公司(羅玉林)大正十一年迄明治鐵業株式會社と合辦	洋式稼行中、一日出炭八十噸
紅 螺 峴	錦州の西南四十五支里	亞無煙炭	稍 良	同	愛商公司其他	土法稼行
三 家 子	車平縣鐵嶺の西方約百四十支里	瀝青炭	不良	少し	日支合辦興業公司	
黑 頂 山	洮南の西約百四十支里	半無煙炭	同	同		

○南滿洲(奉天省、吉林省南部)重要炭田一覽表

産 地	地質時代	骸炭性	炭 種	炭 量
撫 順	第三紀	弱粘結	瀝青	九一五、七〇〇千噸
本 溪 湖	二疊石炭紀	粘 結	高度瀝青	一〇三、二〇一
煙 臺	同	不粘結	高度無煙、半無煙	四〇、〇〇〇
大 疋 疔 瘡	侏羅紀	弱粘結	瀝青	(實在) 一八、二三〇
牛 心 亮	二疊石炭紀	不粘結	高度無煙、無煙	(推定) 三二、〇七四
田 師 付 溝	同	粘結、不粘結	高度無煙、半無煙、無煙	一一、〇〇〇
缸 窰(長春縣)	第三紀	不粘結	褐炭	一九、六〇〇
五 湖 嘴	二疊石炭紀	不粘結	高度無煙、無煙(半無煙)	(假定) 一〇、〇〇〇
石 門 寨	第三紀	弱粘結	瀝青	七、二〇〇
案 馬 集	侏羅紀	粘結、弱粘結	無煙、高度瀝青	六、四二三
				六、〇〇〇

第一章 内地化學工業に對する原料資源としての滿洲の價值

二佛廟 (高力井子缸窑を含む)	二疊石炭紀	無煙(?)	三、五〇〇
紅 蠟 硯	同	半無煙	三、五〇〇
掏 鹿	侏羅紀	高度瀝青、瀝青(無煙)	三、〇〇〇
級子山、五龍屯	同	瀝青	二、二五二
小 市	二疊石炭紀	高度無煙、高度瀝青	(假想) 二、〇〇〇
火 石 嶺	侏羅紀	瀝青	二、〇〇〇
鐵 廠	二疊石炭紀	高度瀝青(半無煙)	一、二二一
寬城子(石碑嶺陶家屯)	侏羅紀	瀝青	一、一九二
杉 松 崗	二疊石炭紀	高度瀝青、瀝青	一、〇〇〇
大 窰 溝	同	瀝青	一、〇〇〇
炸 子 窰	侏羅紀	瀝青	七〇〇
白 楊 木 溝	二疊石炭紀	無煙(?)	五〇〇
三 家 子	侏羅紀	瀝青	四六三
大 臺 山	同	同	(假想) 三〇〇
懿 路	同	瀝青、褐炭(?)	(同) 三〇〇
沙 河 子	同	瀝青	(同) 三〇〇
杉 松 背	同	褐炭	三〇〇